巻頭言

名古屋大学農学国際教育協力研究センター
センター長　山内　章

わが国の農学やその関連分野の教育、人材養成における、国際協力を推進するナショナルセンターとして、1999 年 4 月に農学国際教育協力研究センター(農国センター、ICCAE)が名古屋大学に設立されてから、もうすぐ９年が経とうとしている。この間、国際協力機関からの要請課題や国際協力プロジェクトの評価分析、現地適応型プロジェクトの開発、並びに全国の農学研究者や教員の人材データベースの構築とその活用によるネットワーク形成・コーディネート手法開発の研究、途上国研究者技術者研修、国際協力専門家研修等の分野で大きな成果を挙げてきた。

ICCAE は、大学や文部科学省、さらには国際協力機関(JICA、JBIC、JIRCAS 等)など、国内外の様々な組織と今後さらに幅広いネットワークを作り、農学分野における教育協力に関する拠点機能をさらに強化し、人材養成に大きく貢献したいと考えている。

一方名古屋大学は、2005 年 12 月に「名古屋大学国際化推進プラン」を作成し、全学的な観点から国際学術交流の方針や計画を企画・実施・評価する支援組織として、2006 年 4 月に「名古屋大学国際交流協力推進本部」を設置した。関係者の努力により、そのプランの実質化が進んできたが、今後、本格的に他機関との共同で事業の実施を推進していくために、解決しておくべき課題もいくつか見えてきた。とくに、中期計画・目標において、国際開発協力に掲げられている目標と行動計画で定められている国際援助機関等からのプロジェクト受託および資金導入の支援体制の充実を図り、国際開発協力活動を推進し、全学的体制を整備するための課題を整理する必要がある。

ICCAE はこれまでに、とくにそのときどきで重要な課題に焦点を当て、オープンフォーラムを開催し、その成果を、ICCAE の学術誌である本誌「国際農学協力」に掲載してきた。本号は、2007 年 10 月 29 日(月)ー30 日（火）に開催した第 8 回オープンフォーラム「大学と国際協力機関との組織連携の強化　－大学国際化戦略の一環として－」において、国際教育協力分野で先導的な取組をおこなっている我が国大学の研究者・職員や文部科学省、国際協力機関による発表内容をまとめたものである。

日本政府は、わが国が果たすべき国際貢献の中で、「知的」国際貢献をたいへんに重要に位置づけていて、そこで大学等が果たすべき役割は、今後一層重要になってくる。しかし、従来の大学等が実施してきた国際協力活動は、個人の努力と情熱に依存する部分が大きく、組織的、継続的に、大学等が有する知的資源を十分に有効に活用してきたとは言えない。

本号が、関係者間での、今後解決すべき問題点の共有に一役買い、今後ますます大学が国際協力において重要な役割を果たしていくために役立てられるとすれば望外の喜びである。